

令和4年度全国剣道指導者研修会（東日本ブロック・千葉県）



木刀による剣道基本技稽古法の様子

令和4年度全国剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、千葉県教育委員会、千葉県剣道連盟、主管＝千葉県学校剣道連盟）は10月28～30日、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、講師6名、参加者34名が集まって行われた。

本事業は、平成22年度から令和元年度までの10年間、全国9ブロックのうち、毎年5ブロックで実施され、全都道府県をまわり約3,000名の参加を得た。令和2年度から、全国を東西に分けた2ブロックで行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止が続いたため、今回は3年ぶり、2ブロック開催では初めての開催である。

■1日目（10月28日）

開講式では、はじめに吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「全国約3,000の中学校で剣道授業が行われている。2泊3日で、剣道を教材として、何を生徒に伝えるのか、しっかり研修していただきたい。実りのある研修となることを期待している」と挨拶した。

続いて、百鬼史訓なまきりふみのり全日本剣道連盟参与が挨拶に

立ち「コロナ禍もあり、学校現場ではさまざまな変化が生じている。その変化にどのように対応していくのか、コミュニケーションを図り、話し合っていて考えていきましょう」と述べた。

開講式終了後、百鬼講師が本研修会の経緯と全日本剣道連盟の取り組みについて講話した。また、部活動の地域移行にも触れ、課題と対応策について説明した。

その後、藤田弘美講師と岩脇司講師が「中学校保健体育における剣道学習の考え方」について講義を行い、①剣道授業の調査結果の紹介②学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた剣道学習の進め方③主体的・対話的で深い学びの展開例の3点を説明した。岩脇講師は、主体的・対話的で深い学びの実現には、授業全体を通して、単元計画をしっかりと作ることが何よりも大事であると述べた。

■2日目（10月29日）

はじめに、軽米満世講師が「剣道の歴史と特性」について説明した後、山神眞一講師による「武道的素養を培う遊びの体験」の実技研修が行われた。ジャンケンゲームや手ぬぐいゲームなど、剣道の特性を感じ取らせる実技を实践した。山神講師が

らは、楽しむだけでなく、剣道につながる動きであることを意識しながら行うことの重要性が強調された。



手ぬぐいゲームを指導する山神講師と藤田講師

その後、軽米講師による「剣道に必要な動きづくり」の実技研修が行われた。剣道授業は冬に行われることが多いが、すり足や踏み込み足の練習を用いることで、ウォーミングアップにもなり、運動量の確保や寒さ対策につながると説明があった。

続いて、百鬼講師が礼法について説明し、山神講師と岩脇講師が木刀による剣道基本技稽古法の基本1～5を示範しながら指導した。

その後、木刀による剣道基本技稽古法の中で、生徒がつまずきそうな技をどのように解決するか、グループで討議し練習・発表を行った。基本技3の払い技を簡単にするために、まずは手刀で両手を体の前ではたき、動きに慣れてから木刀で実践する事例が発表された。

昼食後、岩脇講師が竹刀による授業例として「打ち方・打たせ方」を指導し、音楽に合わせて打突する「リズム剣道」を佐藤義則講師が紹介した。佐藤講師からは、リズム剣道の利点について、巡回指導ができ、楽しく基本動作の反復練習ができることが示された。

続いて、藤田講師が「剣道具の着装」を、岩脇講師が「基本となる技の段階的な指導」を、軽米講師が「判定試合」をそれぞれ指導した。判定試合によって、1本となるための有効打突を生徒が意識するようになり、できたこと・できなかったことを振り返り、深い学びにもつながると説明された。

その後、応じ技と応じ技を用いた判定試合を佐

藤講師が、約束練習を藤田講師が、自由練習とポイント制の試合について軽米講師が、実技の最後に剣道具の結束を岩脇講師が指導した。

2日目の最後は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりと実践事例について、5つのグループに分かれて研究協議を行った。ICTの活用例と交流活動の在り方について発表が行われ、最後に藤田講師が「深い学びのツールとして、ICTを活用し、協力し合う場面を設けることを大事にしてほしい」とまとめた。

■3日目（10月30日）

はじめに、百鬼講師が「安全指導」の講義を行った。剣道具の構造にも触れながら、事故が起こる原因や危険性を説明した。

次に、佐藤講師による「体罰・暴言によらない指導」についての講義が行われた。調査結果から体罰を受けた人は、のちに体罰を与える人になりがちであることや、温もりのある言葉で指導に当たること、褒める際は能力ではなく努力を褒めることが大事であるなど、述べた。

最後に、軽米講師が「コロナ禍の剣道授業での配慮事項」を講義し、全剣連の取り組みや、コロナ禍の実際の剣道授業を映像で紹介した。

閉講式では、修了証の授与の後、講師講評を軽米講師が、主催者挨拶を百鬼全日本剣道連盟参加者がそれぞれ述べ、3日間のすべてを終了した。

～参加者の声～

- ・気剣体の判定試合は、その後の対話的な学習にもつながり大変参考になった。
- ・ICTの活用が求められている中で、「正しく」活用することが課題となっているように思えます。本当に必要な場面で使われているのかなど、確認しようと思える機会になりました。
- ・講師・参加者の皆さんの惻隠の情を受け、研修を終えることができました。本研修会で教えていただいたことを、今後の指導に活かします。